エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは(財)日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料および商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2011.12.1 No.85

2011年度「エコマークコミュニケーションフォーラム」のご案内

エコマークでは、消費者、事業者等ステークホルダーが集うコミュニケーションの場として、「エコマークコミュニケーションフォーラム」を開催いたします。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

◆日　時：2012年2月2日（木）　14：00～16：30（13：30開場）
◆場　所：東京ウィメンズプラザ・ホール（東京都渋谷区神宮前5-53-67）
◆参加費：無料（定員200名、先着順）
〈プログラム（予定）〉
・「エコマークアワード2011」表彰式
・講演　環境省上席参与、慶應義塾大学環境情報学部教授　小林 光氏（タイトル未定）
・エコマーク年次活動報告

◆お申し込み方法：参加申込書にご記入の上、EメールまたはFAXにてお申し込みください。
定員に達し次第、受付を終了させていただきます。
＊詳細については、エコマーク事務局のウェブサイト（http://www.ecomark.jp/forum2011.html）をご覧ください。

認定基準に関するお知らせ

認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
501	小売店舗 Version1.0（新基準）	2011年11月15日	2018年11月30日

◆認定基準やお申込みの手続きは（http://www.ecomark.jp/service/index.html）をご覧ください。

〈認定基準制定の背景〉

新商品類型「小売店舗」は、店舗運営に伴う環境負荷低減の実践から、店舗と消費者がともに行う環境活動や環境に関する普及・啓発活動までを幅広く評価することにより、環境に配慮した買物行動を通じた店舗と消費者の良好な関係を築き、消費者に身近な環境活動実践の場を示すことを目的として制定しました。

本認定基準では、環境負荷や社会への影響が大きいと考えられる大規模小売店舗（店舗面積1,000m^{2}以上）を適用範囲としており、審査に伴う現地確認、専門指導員による消費者目線でのモニタリング、店舗での環境活動に関する工夫や定量化データの公表（店内およびエコマーク事務局ホームページ）など、新たな評価手法や情報共有手段を導入しています。

認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付

以下の認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付について、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	公表期間（30 日間）
新規	BD/DVD レコーダー・プレーヤー Version 1.0	2011 年 11 月 15 日～2011 年 12 月 14 日
138	建築製品（材料系の資材）Version 1.6 分類 D-1 ～耐火鋼材～（適用範囲の拡大）	
138	建築製品（材料系の資材）Version 1.6 分類 D-2 ～デッキプレート～（適用範囲の拡大）	
新規	電球形 LED ランプ（A 形）Version 1.0	2011 年 12 月 1 日～2011 年 12 月 30 日

◆認定基準案、パブリックコメントの受付については（http://www.ecomark.jp/nintei2.html）をご覧ください。
◆「電球形 LED ランプ（A 形）Version 1.0」認定基準案の説明会（12 月 20 日：大阪、12 月 22 日：東京）のご案内については、（http://www.ecomark.jp/）をご覧ください。

認定基準の改定

以下の認定基準の部分的な改定の実施について、お知らせいたします。（Version の No. は改定前のもの）

類型番号	商品類型名	改定のポイント	改定日
112	文具・事務用品 Version 1.14	グリーン購入法との整合（対象品目の追加、ノートの古紙パルプ配合率の見直し）	2011 年 11 月 1 日
128	日用品 Version 1.13	材料（ガラス）に関する基準の見直し	
129	廃食用油再生せっけん Version 1.4	適用範囲、廃食用油等の配合割合の見直し	
101	かばん・スーツケース Version 1.4	引用している試験方法の規格番号等の変更に伴う改定	
143	靴・履物 Version 1.2		
144	革製衣料品・手袋・ベルト Version 1.2		
133	デジタル印刷機 Version 1.8	リユース機のグリーン購入法との整合	2012 年 1 月 1 日

◆改定点の詳細については（http://www.ecomark.jp/kijyun_archives.html）をご覧ください。

新規商品類型認定基準策定にあたっての意見ならびに委員候補者の募集について

エコマークでは、「ホテル・旅館」を新規商品類型として選定しました。本商品類型の認定基準の検討を的確に進めるため、メールマガジンおよびエコマーク事務局ホームページにて、広く一般より「ホテル・旅館」認定基準策定に関する意見、ならびに認定基準案の策定にあたる「ホテル・旅館」基準策定委員会の委員候補者を募集しました。これを踏まえ基準策定委員会を設置し、認定基準の検討を行います。

委員会報告

運営委員会（第 27 回）

第27回運営委員会が、2011年9月27日に開催されました。報告事項は以下のとおりです。

〈報告事項〉

1. 平成 22 年度エコマーク事業収支決算について
2. 平成 23 年度エコマーク事業の進捗状況について
3. エコマーク料金制度等見直しの検討状況について

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/unei_info.html#27）をご覧ください。

基準審議委員会（第６回）

第６回基準審議委員会が2011年10月24日に開催されました。審議・報告事項は以下のとおりです。

〈審議事項〉

1. エコマーク商品類型（認定基準）案について（P.2参照）
2. エコマーク商品類型（認定基準）の部分的な改定について（P.2参照）

〈報告事項〉

3. 第27回エコマーク運営委員会について

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/kijyun_archives.html）をご覧ください。

㊐認定商品のご紹介

消音ピアノユニットのエコマーク認定商品が登場――ピアノの長期使用を促進

■使われていないピアノの機能を復活

エコマークでは、2011年6月に新規商品類型「楽器Version1.0」分類A.消音ピアノユニットの認定基準を制定しました。消音ピアノユニットは、従来のピアノに機器を取り付けることで音を鳴らさずに鍵盤の動きをデジタル信号化し、ピアノ音をモデリングする商品です。認定基準制定を受け、このほど(株)コルグの「ハイブリッド・ピアノ」が認定を取得しました（認定番号11 148 001・002）。

日本国内には700万台を超えるピアノがあると推定されますが、そのうち300万台程度が実際に使用されていない状態にあるものと見られます。その要因として、居住環境等の制約により大きな音量での利用が困難であることなどが考えられます。

使用されなくなったピアノに消音ピアノユニットを装着することにより、楽器としての機能を復活させ、長期間にわたり演奏を楽しむことが可能になります。その結果、貴重な資源を使い多くの工程を経て製造された楽器が有効に利用されるとともに、廃棄に伴う環境負荷を低減させることにつながります。

■ピアノ本来の鍵盤タッチを追求

(株)コルグの消音ピアノユニットは、ピアノの音を出すアクションと呼ばれる部分に消音バーを取り付け、ハンマーが弦を打つ直前で止めることにより、アコースティックピアノの音を消します。同時に、鍵盤の下に取り付けた非接触式鍵盤センサーが１つ１つの鍵盤の動きを読み取り、その情報を音源モジュールに送り、デジタル録音をしたピアノの音を出す仕組みになっており、わずかな消費電力（20W以下）で一連のプロセスが行われます。また、音量の調節、ヘッドフォンの使用、演奏データのパソコン等への取り込み機能（KHP-5000/2000）なども装備しており、さまざまな環境において演奏を楽しむことができます。

エコマーク認定の(株)コルグの
「ハイブリッド・ピアノ KHP-2000」

製品の開発にあたっては、演奏者にとって非常に重要な要素である鍵盤のタッチ感をいかに本来のピアノに近いものにするか、という点が課題となりました。同社が開発した非接触式鍵盤センサーでは、光センサーにより打鍵の微妙な強弱やニュアンスをとらえて再現することにより、アコースティックピアノと同じ鍵盤タッチで自然に演奏することを可能にしました。

■楽器の分野における環境配慮の浸透に向けて

楽器という製品は、品質や性能などに対する購入者の要求度が高く、素材などにも特有の性質が求められるため、環境配慮の余地が限られていると思われていた面があります。しかし、楽器の製造には木材をはじめとする貴重な資源を使用し、また電力の消費を伴う楽器も多く、長寿命化や省エネルギー対応など環境との接点は少なくないと考えられます。

(株)コルグでは、今回のエコマーク認定取得を契機に、総合楽器メーカーとして環境に配慮した製品づくりにさらに力を入れていく考えを示しています。同社の担当者は、「楽器の分野においてもエコマーク認定商品が増えていくことにより、環境への意識を高めながら音楽の楽しみを広げていくことにつながればと思っています」と語っており、こうした動きが楽器の分野に浸透していくことが期待されます。

◆「コルグ・ハイブリッド・ピアノ」のウェブサイト
http://www.korg.co.jp/Product/PianoSilenceUnit/

トピックス

GEN 年次総会に出席しました

世界エコラベリング・ネットワーク（GEN）の年次総会が、10 月 24 日～28 日の５日間、台湾で開催され、世界各国から環境ラベル団体、環境省などの行政機関、その他関連団体の担当者など約 50 名が出席しました。

総会期間中は、共通基準や環境ラベルの効果測定などについてのワークショップなども行われ、活発な議論が交わされました。

なお、宇野 治エコマーク事務局長が 2012 年の GEN 役員として再選されたほか、(財)日本環境協会が 2014 年まで総務事務局を担当することが決定しました。

来年の年次総会は、2012 年 10 月末頃にブラジル・リオデジャネイロで開催される予定です。

（GEN のウェブサイト：http://www.globalecolabelling.net）

第 11 回日中韓環境産業円卓会議に出席しました

第 11 回日中韓環境産業円卓会議が 11 月９日、10 日に愛知県名古屋市にて開催され、日本、中国、韓国の環境省、研究者、認証機関等の担当者、専門家等、約 30 名が出席しました。

「グリーン調達」「環境マネジメント」「環境ラベル」「環境産業技術交流」の４つのセッションのうち、エコマーク事務局は「環境ラベル」のセッションにおいて、日中韓３カ国の環境ラベル間相互認証の進捗状況や現在基準の共通化に取り組んでいる DVD 機器などについて発表し、意見交換等を行いました。

【エコマーク事務局からのお知らせ】

■「エコプロダクツ 2011」に出展します

(財)日本環境協会エコマーク事務局は、グリーン購入ネットワーク（GPN）、(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会（NACS）と共同で、12 月 15 日～17 日に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ 2011」に出展します。

今回の合同出展では「暮らしと環境のつながり」をテーマに、地球温暖化、資源枯渇、生物多様性の３つの視点で、生活シーンに合わせた商品選択が環境負荷低減につながることを伝え、消費行動を環境配慮型に変えることの重要性を訴えます。皆様のご来場をお待ちしています。

■東海三県一市グリーン購入キャンペーンについて

東海三県一市（愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市）の広域連携により、消費者に対してグリーン購入の普及と啓発を図る「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」が、2012 年１月 15 日から２月 14 日の１カ月間実施されます。今年度で 10 回目となる本キャンペーンでは、協力店舗内での PR やキャンペーンイベントの実施を予定しています。キャンペーンへのご理解・ご協力をお願いいたします。

エコマークニュース 第 85 号　2011 年 12 月 1 日発行

編集・発行／財団法人 日本環境協会　エコマーク事務局
〒 103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 1-4-16 馬喰町第一ビル 9F
TEL：基準・認証課　03-5643-6253　FAX：03-5643-6257（各課共通）
総務・契約監査課　03-5643-6255
普及・国際協力課　03-5643-6255
Homepage：http://www.ecomark.jp　E-mail：ecomark@japan.email.ne.jp

エコマークは（財)日本環境協会の登録商標です。